

科目名	世界史演習	学年	普通				必/選	単位数
			国文	普通	理進	体育		
			3	○				
科目の目標	2年次に学習した『世界史B』の内容を発展させ、地理的な知識や現代社会の特質などと関連づけながら「歴史」を様々な視点からより深く考察させることにより、興味・関心を引き出し、理解を深める。							
授業・学習の進め方	講義を主としながら、問題演習・解説等を取り入れた授業を行う。また、2段階討議などにより、自身の考えを深める授業を取り入れるように努める。							
教材	『グローバル最新世界史図表』（第一学習社） 問題プリント							
成績・評価について	次の4つの観点による評価を踏まえて、総合的に成績を決定する。 1. 関心・意欲・態度（授業へ取り組む姿勢、課題の提出状況） 2. 思考・判断・表現（課題の発見、多面的・多角的考察と判断、発表） 3. 資料活用の技能（資料の収集・情報の選択、効果的活用） 4. 知識・理解（基本事項の理解）							
年間の学習内容・学習のねらい・観点								
月	学習内容	考查	学習のねらい	観点				
				1	2	3	4	
4	古代 ギリシア・ローマ 中国の古代王朝	中間	・問題演習・解説等を繰り返すことにより、昨年度から継続して学習している世界史への興味・関心を引き出すとともに、入試に耐えうる学力の補充を考えながら行う。 (古代史を中心教材とする)	○	○	○	○	
5	イスラームの展開							
6	中世 ヨーロッパの中世社会	期末	(中世史を中心教材とする)	○	○	○	○	
7								
9	近世 主権国家体制の成立 アジアの専制国家 世界の一体化の始まり	中間	(近世史を中心教材とする)	○	○	○	○	
10								
11	近代・現代 市民革命と世界 19世紀の世界	期末	(近代史を中心教材とする)	○	○	○	○	
12	二つの世界大戦							
1	総仕上げ	学年末	・具体的な過去問等を演習課題に採用し、自分の成長を実感する。 (大学の過去出題問題を中心教材とする)	○	○	○	○	

科目名	日本史演習	学年	普通					必/選	単位数
			国文	普通		理進	体育		
			3	○					
科目の目標	2年次に学習した『日本史B』の内容を発展させ、地理的な知識や現代社会の特質などと関連づけながら「歴史」をもう一度、いろいろな視点から考察させることにより、興味・関心を引き出し、大学入試に耐えうる学力をつける。								
授業・学習の進め方	講義を主としながら、問題演習・解説等を取り入れた授業を行う。 また、2段階討議などにより、自身の考えを深める授業を取り入れるように努める。								
教材	『新詳日本史』（浜島書店） 問題プリント、ビデオ、DVDなど								
成績・評価について	次の4つの観点による評価を踏まえて、総合的に成績を決定する。 1. 関心・意欲・態度（授業へ取り組む姿勢、小テストの得点状況） 2. 思考・判断・表現（発問の返答、テーマ別の論述） 3. 資料活用の技能（資料の収集・情報の選択、効果的活用） 4. 知識・理解（定期考査、小テスト）								
年間の学習内容・学習のねらい・観点									
月	学習内容	考査	学習のねらい	観点					
				1	2	3	4		
4	・ 古代 大和政権と古墳	中間	・ 問題演習・解説等を繰り返すことにより、昨年度から継続して学習している日本史への興味・関心を引き出すとともに、入試に耐えうる学力の補充を考えながら行う。 (古代史を中心教材とする)	○	○	○	○		
5	律令国家の成立と展開								
6	撰関政治 荘園の発達と武士								
7	・ 中世 武士政権の成立と展開	期末	(中世史を中心教材とする)	○	○	○	○		
9	・ 近世 幕藩体制の成立 幕藩体制の展開	中間	(近世史を中心教材とする)	○	○	○	○		
10									
11	・ 近代 明治維新と近代化								
12	・ 現代 二つの世界大戦と日本	期末	(近代史を中心教材とする)	○	○	○	○		
1	・ 総仕上げ	学年末	・ 具体的な過去問等を演習課題に採用し、自分の成長を実感する。 (大学の過去出題問題を中心教材とする)		○		○ ○		

科目名	日本史 A	学年	普通				必/選	単位数
			国文	普通	理進	体育		
			3				○	必修
科目の目標	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などに関連付けさせて考察し、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。							
授業・学習の進め方	プリントによる作業学習を取り入れながら、グループ・ペア等による教え合い・学び合いを意識した授業を展開し進めてゆく。							
教材	教科書『高等学校 日本史 A 新訂版』清水書院 資料集『新詳日本史』浜島書店							
成績・評価について	次の4つの観点による評価をふまえて総合的に成績を決定する。 1. 関心・意欲・態度（授業姿勢、課題提出状況） 2. 歴史的思考力（発問の返答、テーマ別の論述） 3. 歴史資料の活用技能（定期考査、レポート） 4. 知識・理解（定期考査、小テスト）							
年間の学習内容・学習のねらい・観点								
月	学習内容	考査	学習のねらい	観点				
				1	2	3	4	
4	歴史に学ぶ 私たちの時代と歴史	中間	身近な生活文化や地域社会の変化などにかかわる主題を設定し追求する学習を通して、歴史への関心を高めるとともに、歴史的な見方や考え方を身に付ける。	○	○			
5	国際関係の変化と幕藩体制の動揺		開国以後、明治維新を経て近代日本が急速に形成された過程を、国際環境と関連付けて理解する。	○	○	○	○	
6	明治維新と近代国家の形成		版籍奉還、廃藩置県、四民平等政策などを通して明治新政府の政治理念を探究する。	○	○			
7	立憲政体の成立と国際的地位の向上	期末	大日本帝国憲法とそれに依拠した立憲体制の実態を分析する。	○		○	○	
9	第一次世界大戦と日本 第二次世界大戦と日本	中間	第一次世界大戦前後から第二次世界大戦終了までの我が国の状況について、国際情勢と関連付けて考察する。	○	○		○	
10	戦後政治の動向と国際社会		相次ぐ恐慌が日本の社会や政治の方向にどのような影響を与えたかを読み解く。	○	○	○	○	
11	経済の発展と国民生活の変化		第二次世界大戦後の民主化と復興、国際社会への復帰、経済の発展について、理解を深める。	○		○		
12			冷戦の激化が日本の占領政策に及ぼした影響を考察する。	○	○	○	○	
		期末	高度経済成長の経緯をそのひずみにも着目して読み解く。	○	○	○	○	
1	現代の日本と世界	学年末	現代の日本について、世界の動向と関連付けて考察するとともに、我が国の課題と役割について認識する。	○	○		○	

科目名	地理 A		学年	普通				必/選	単位数
				国文	普通	理進	体育		
			3	△	○	△	△	必修/選択	2
科目の目標	地理的な見方や考え方を培い、現代世界の地理的な諸課題について地域性を踏まえて考察し、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。								
授業・学習の進め方	1. 地図の読図をとおして、地理的な感覚を養う。 2. 自然環境が人々の生活に与える影響を理解し、世界の人々が自然環境とどう向き合い、共存してきたかを考える。 3. プリントによる作業学習、インターネットや図書館を利用した調査学習などを行う。								
教材	教科書 『高校生の地理 A』(帝国書院) 地図帳 『基本地図帳 改訂版』(二宮書店) 資料集 『図説地理資料 世界の諸地域 NOW 2023』(帝国書院)								
成績・評価について	次の4つの観点による評価を踏まえて、総合的に成績を決定する。 1. 関心・意欲・態度(授業へ取り組む姿勢、課題の提出状況) 2. 思考・判断・表現(課題の発見、多面的・多角的考察と判断、発表) 3. 資料活用の技能(資料の収集・情報の選択、効果的活用) 4. 知識・理解(基本事項の理解)								
年間の学習内容・学習のねらい・観点									
月	学習内容	考查	学習のねらい	観点					
				1	2	3	4		
4	はじめに 世界の国々、日本の国名、 地形、都道府県名など	中間	白地図を使った作業を通して世界やわが国の境界を認識する	○	○				
5	1 私たちの地球をみつめる 1) 球面上の世界と地域構成 2) 結びつく現代世界		地球儀・地図帳などを使用し、緯度・経度・時差・図法について学習し地球の全体像を理解する	○	○				
6	2 さまざまな地域の生活と環境 1) 人間生活とり巻く環境		特徴的な地形図を読み取り、多様な空間的広がりを理解する。 ケッペンの気候分類を通して、気候に応じた植生・生活・文化・産業などを理解する。	○	○				
7	地形図 地形 気候 産業	期末				○	○		
9	2) 世界の諸地域の生活・文化	中間	各地域における自然環境と様々な民族の生活・文化・産業などの地誌的特色を理解する。	○	○				
10	中国 朝鮮半島 他		人口問題、食料問題、都市・居住問題、資源・エネルギー問題、環境問題などの課題について、地理的視野を持って解決方法を考える	○	○				
11	3 地球的に広がる課題 1) 地球的課題と私たち						○	○	
12		期末							
1	2) 近隣諸国が取り組む課題と日本の役割	学年末	地球的規模の諸問題についてプリント学習・レポート発表などを通して、日本人としてどう関わっていくべきかを考える。	○	○				